



ごあいさつ



静岡県立静岡がんセンター 病院長
小野 裕之

皆さん、こんにちは。

梅雨の季節を迎え、蒸し暑い日が続くようになってまいりました。北海道出身の私にとっては、この時期特有の湿気と、年々早まる夏の足音に少しばかり身構える季節でもあります。皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。近年は季節の移ろいが急で、春の穏やかな時期が短くなっているように感じられますね。

さて、医療を取り巻く環境は引き続き厳しい状況にあります。物価や人件費の上昇は当院においても大きな課題であり、質の高い医療を維持しつつ、安定した病院運営を行うためには様々な工夫が求められています。当院の理念である「患者さんの視点を重視し、患者さんに寄り添い、最善の医療を提供する」という姿勢はこれからも変わることはありません。そのうえで、地域の皆さまとどのように連携し、より良い医療体制を構築していくかが重要であると考えております。

このたび、地域連携のさらなる強化を目的として、医療連携室の体制はこれまで同様、室長を医師が務め、副室長として新任の看護師長を含め2名、さらに事務職員を配置する体制とし、より多角的かつ機動的に対応できるよう強化いたしました。医師・看護師双方の視点を生かし、地域の医療機関・介護施設の皆さまとの連携をこれまで以上に密にしていきたいと思います。

顔の見える関係の重要性については、これまでも繰り返しお伝えしてきましたが、実際にお会いしてお話することで得られる信頼関係は、日々の診療連携において非常に大きな意味を持ちます。紹介や逆紹介の円滑化、患者さんの情報共有、在宅療養への移行など、どの場面においても、相互に相談しやすい環境づくりが不可欠です。

今後も、地域連携交流会や各種研修会などを通じて、皆さまと直接お話する機会を積極的に設けてまいります。また、日常診療においても、ご不明な点やご相談がございましたら、どうぞお気軽に医療連携室までご連絡ください。皆さまからのご意見やご要望を伺いながら、より使いやすい連携体制を構築していきたいと考えております。

今年も暑い夏が予想されております。皆さまにおかれましても、体調管理には十分ご留意いただき、ご自愛ください。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



もくじ CONTENTS

病院長挨拶	P1
診療科紹介(支持医療科)	P2
特集：乳腺看護外来	P3
地域医療連携室からのお知らせ	P4
編集後記	P4

診療科紹介

静岡がんセンターでは、多分野の専門医師と多職種の専門スタッフによる外来診療とセルフケア指導を行う「支持医療科」を新設し、2026年4月1日から診療を開始しました。支持医療科は、がんそのものを治療するだけでなく、治療に伴う副作用や合併症に専門的に対応し、患者さんが安心して治療を継続できるよう支援する診療科として設立されたのが特徴です。

今回の機関誌やまびこでは、がんセンターとしては国内初の取り組みである支持医療科を特集します。

支持医療科

新設「支持医療科」～がん治療を支え、患者さんのQOL向上を目指して～

支持医療科 部長 内藤 立暁

2026年4月、静岡がんセンターに国内のがんセンター初の「支持医療科」が新設されました。がん治療の進歩で「がんと共存する」期間が延びる一方、新薬の登場により複雑な副作用も生じています。当科は、副作用や合併症の予防・治療に専門的に対応し、患者さんが安心して治療を継続できるようサポートします。



左から：岡歯科医師、安永医師、横山看護師、内藤科部長、清原医師

■当センターならではの特徴

最大の特徴は、有効な治療法が未確立で「アンメットニーズ」の高い領域に特化した専門外来を設けている点です。

- 皮膚・爪障害外来（清原 祥夫 医師）
- リンパ浮腫外来（安永 能周 医師）
- カヘキシア（がん悪液質）外来（内藤 立暁 医師）
- 口腔ケア外来（岡 久美子 歯科医師）
- 漢方外来（安達 勇 医師）

もう一つの特徴が「セルフケア支援外来」です。多職種チーム（看護師、薬剤師、管理栄養士等）が、患者さんご自身での副作用への対応をきめ細やかに指導・支援します。この外来がハブとなり、各専門医と連携する独自の体制を構築しています。

■地域医療機関のみなさまへのメッセージ

当科では、地域の医療機関でがん治療中の患者さんも広く受け入れています。「主治療は地域の先生方に継続いただき、副作用の専門的なマネジメントは当科が担う」という、医療機関を越えた並行診療を推進してまいります。重篤な皮膚・爪障害、難治性のリンパ浮腫、食欲不振や体重減少（カヘキシア）など、対応にお困りの症例がございましたら、ぜひお気軽にご紹介ください。地域と緊密に連携し、患者さんの治療完遂とQOL向上を共に支えていきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。



乳腺看護外来

乳がんは、日本人女性に最も多いがんであり、手術療法・薬物療法・放射線療法などを組み合わせた治療が行われます。さらに、治療後も長期にわたる経過観察が必要になることが特徴の一つです。診断時から治療中、治療後に至るまで、患者さんは多くの情報と向き合いながら、その都度、治療や生活に関する選択を求められます。

静岡県立静岡がんセンターでは、年間約450名の乳がん患者さんの診療を行っており、こうした過程を支える継続的な支援の重要性から、専門的な知識と経験を有する乳がん看護認定看護師（日本看護協会認定）による「乳腺看護外来」を開設しました。

■乳腺看護外来の実際

乳腺看護外来では、診断時から治療中、治療後に至るまで、患者さんが治療の見通しを持ち、納得した選択のもとで、安心して治療に臨めるよう支援を行っています。また就労、妊娠・出産、育児、家庭役割などの女性のライフサイクルや妊孕性への影響も踏まえ、患者さん一人ひとりの生活背景や価値観を尊重した対応を大切にしています。

▶治療や検査に関する情報の整理と補足説明

診察で提供された情報を患者さんとともに整理し、病状や治療内容への理解を深められるよう補足説明を行います。

▶治療選択における意思決定の支援

患者さんの価値観や生活背景を踏まえ、納得して治療選択ができるよう支援します。

▶療養生活に関する支援

治療と仕事・家庭生活との両立など療養に関する相談に対応します。

▶心理的サポート

診断時から治療後まで、不安や迷いなど心理的負担に対する支援を行います。

▶個別面談による相談支援

患者さん一人ひとりの状況やご希望に応じて、個別に相談できる機会を設けています。



乳がん看護認定看護師



個別面談



地域医療連携室よりお知らせ

NEWS

研修情報

1) 2026年度臨床腫瘍学コース

臨床腫瘍学コース



毎月、臨床腫瘍学コースを開催し地域の医療従事者の方々にも公開しています。

開催時間：18：00～19：30、会場：静岡がんセンター 管理棟4階 研修室1

◇詳細は静岡がんセンター総務課企画人材班 TEL：055-989-5222(代)までお問合せください。

日 時	テーマ	講師(敬称略)
6月26日(金)	研究倫理における最新の課題と対応(仮)	岡山大学病院 新医療研究開発センター 臨床研究部 教授 堀田 勝幸

2) 2026年度臨床研究研修会

静岡 臨床研究研修会



臨床研究に携わる医師・歯科医師、研究支援者を対象とした研修会を開催しています。

◇詳細は臨床研究支援センター臨床研究管理・調整室 TEL：055-989-5222(代)までお問い合わせください。

日 時	テーマ	講師(敬称略)
7月9日(木) 17：30～19：00	AI技術の臨床研究活用(仮)	慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 教育研修部門長/広報部門長 特任講師 吉田 和生
7月16日(木) 16：00～17：30	原発性/転移性脳腫瘍の最新治療(仮)	静岡県立静岡がんセンター 脳神経外科 部長 三矢 幸一

お知らせ

2026年度静岡がん医療 地域連携交流会のお知らせ

日 時 2026年7月1日(水) 19時～21時(受付開始18:15～)

場 所 プラサヴェルデ コンベンションホール(沼津市大手町1-1-4)

第1部 講演会 19：00～19：45 @コンベンションホールB(3階)

講演1…診療科横断スクリーニングによる高齢がん患者支援と
地域連携型多職種介入モデルの構築(仮)

講演2…胃の内視鏡治療の最前線(仮)

第2部 懇親会 19：45～21：00 @コンベンションホールA(1階)



2025年度交流会の様子

編集 後記

今号の「医療連携だより」では、治療と並行して患者さんを支える「支持医療科」の新設と、専門的なケアを提供する「乳腺看護外来」の特集を掲載いたしました。地域の先生方と顔の見える関係性を築くため、7月1日には地域医療連携交流会を開催いたします。ぜひご参加いただき、意見交換ができればと存じます。今後とも当院をよろしくお願いいたします。



発 行 静岡県立静岡がんセンター 患者家族支援センター 地域医療連携室
〒411-8777 駿東郡長泉町下長窪 1007 TEL：055-989-5222(代)
発行責任者 地域医療連携室 副室長 小林 考江